

# 第1回 オリエンテーション

## (1) プログラム

□日 時：7月12日（日） 13：30～17：00

□会 場：江東区文化センター5階 第6・7・8会議室

□内 容：オリエンテーション

- ・今年度の主旨と取り組みを説明しました。
- ・UDはすべての人の平等を基本にした考え方です。その対極にある「差別」について、アドバイザーの川内さんに講演をしていただきました。
- ・その後、グループに分かれて、「UDまちづくりを進めるためのコミュニケーションのあり方」について話し合いました。

□タイムテーブル：

13：30（05分）【開会】あいさつ

13：35（30分）【今年度の進め方】趣旨と取り組みの内容

13：55（40分）【講座】「UDってなんだろう？」

14：35（25分）【グループワークと発表1】『社会モデル』を私の立場で考えてみる

Q 「私が基準で考えられていない」と思うことありませんか？

- ・グループで共有（10分）
- ・全体で共有（10分＝1分×8グループ）

15：00（10分）～休憩～

15：10（60分）【ビデオ上映・寸劇・お話】

多様な立場の人が、まちや暮らしで感じていること

- ・車いす使用者 ・視覚障害者 ・知的・精神障害者
- ・聴覚障害者 ・言語障害者 ・難病者

16：10（45分）【グループワーク2】UDについての感想や意見

Q1 ビデオ上映・寸劇・お話を聞いての感想

Q2 UDについて初めて知ったこと、気づいたこと

- ・各自、フセンに記載してもらう（5分）
- ・グループで共有（15分）
- ・全体で共有（2分×8グループ）

16：55（05分）事務連絡、アンケート記入

17：00 終了

## (2) 講座：「UD ってなんだろう ～差別と尊厳～」

江東区 UD まちづくりアドバイザー 川内美彦氏

### ■今日の「障害」観（社会モデルの考え方）

例えば A さんが脳出血で半身不随になってまちに出入れなくなった。この場合、まちに出入れなくなったことを、A さんが半身不随になったからと考えるのが《医学モデル》。一方で、まちが使いづらいから出入れないと考えるのが《社会モデル》の考え方である。

医学モデルは本人の身体を社会に適応させる、社会モデルは社会を本人の身体に適応させることになる。

社会のありようによって、その人の人生は変わってくる。社会側にも問題があることに気づき、多様な人を受け入れる方向に変わるべきである。

個人と社会の両方の努力が必要だが、これまで社会側の努力が足りなかったことがあり、現在、バリアフリーが社会運動として広がってきている。

### ■なぜバリアフリーが必要か？

ある人が使えないのは、それが差別になるからだ。それでは、なぜ不平等や差別がいけないのか。

差別は「尊厳」を傷つけるからだ。日本では、不平等や差別が人間としての尊厳を傷つけると理解されていないから、優しさ＝感情で処理しようとする。

例えば、美味しいと評判の店には段差があり、車いす使用者は入れないことがある。表面的には「段差があって入れない」ことが問題だが、本質的には「尊厳を傷つける」ことが問題なのである。

### ■障害者権利条約

この条約では「障害に基づく差別」とは、以下のように書かれている。

「障害に基づくあらゆる区別、排除または制限であって、政治的、経済的、社会的、文化的、市民的その他のあらゆる分野において、他の者との平等を基礎としてすべての人権及び基本的自由を認識し、享有し、又は行使することを害し、又は妨げる目的又は効果を有する



ものをいう。障害に基づく差別には、あらゆる形態の差別（合理的配慮の否定を含む。）を含む。」

《合理的配慮》とは、手助けが必要な障害のある人がいる場合に手助けをする、ただし負担が大きすぎて無理な場合は、できない理由を説明をして断ってもいいとしている。

日本では、国で法を定めて整備を進めているが、法や基準通りの整備であっても使えない人がいる。法や基準は万能ではない。合理的配慮はそれを埋めるもの、使う実質を担保するものである。合理的配慮が提供されないことで目的を達成できないのであれば、それは差別となる。

日本では整備を進めることに重点が置かれがちだが、世界では「目的を達成できること」に重点が置かれている。

### ■「やり方が違う」ことを考える UD

人はできることが違うので、みんなが「同じ目的を達成したい」と考えた時、人によりやり方が違ってくる。「できないこと」ではなく、「やり方が違う」ことに注目しその違いを認めあうことが大切である。

国際障害者年行動計画（1979年）では、「ある社会が、その構成の幾らかの人々を締め出すような場合、それは弱く脆い社会である」と言っている。

できるだけ多くの「違うやり方」が選択できる社会側の整備を進めると同時に、それでも目的達成できない時はみんなで助け合う社会が、UD まちづくりと言える。

### (3) ビデオ上映・寸劇・お話

#### 車いす使用者の動画

- ・文化センターから、ふれあい工房ゆめま〜るまで、移動してもらいました。その間に、歩車間の段差や植え込みの段差等に気をつけていること、歩道を飛ばす自転車に困っていること等を教えてもらいました。



#### 視覚障害者（全盲）の動画

- ・家から最寄り駅まで、白杖を使いながら単独で歩いてもらいました。電柱の数や、魚屋の冷蔵庫の音、商店街の街路放送、また道路を白杖でたたいてその響きで近くにマンションがあるか等を確認していることを教えてもらいました。



#### 視覚障害者（弱視）の動画

- ・よく行くまちを歩いてもらいました。点字ブロックは、目で追ってまっすぐ歩く頼りにしていました。まち中のサイン板は「現在地」がわかりやすいことが大切、階段や段差は段鼻が目立っていないと危険であること等を教えてもらいました。



- ・この他、いろいろな障害者が働くカフェ「ふれあい工房 ゆめま〜る」に通う人、聴覚障害のある人、内臓疾患のある人から、暮らしの中で困っていることを教えてもらいました。



## (4) 第1回意見のまとめ

### ■グループワーク 1

#### | 社会モデルを私の立場で考えてみる

##### <トイレの設計>

- ・乳がん患者でリンパを切除している。トイレの荷物掛けは高い位置にあり、手があげられないので使えない。また荷物かけがないトイレもある【3G】
- ・トイレ設備の仕様（配置）が場所によって異なることが問題。視覚障害者は手探りで洗浄ボタン等の設備を探しているのが不便【7G】
- ・駅の誰でもトイレは、安全確認のため30分で自動的に扉が開いてしまう設定（重度障害者にとっては時間との戦い）【4G】

##### <聴覚障害者とのコミュニケーション>

- ・病院等ではみんなマスクをしていて、口元が見えなくて呼ばれてもわからない【2G】
- ・手話ができる人が少ない、筆談道具が用意されていない、コロナでマスクをする人が多いため、口形や表情が読みづらい。一方、スマホによるコミュニケーションが増えている【8G】

##### <道路の設計>

- ・2cm以上の段差があると大変。高さが法律で決められているが、守られていない場所もある。かつて足を骨折して不便を感じた【6G】

##### <情報収集>

- ・スマホを持っていないので、情報を利用しにくい【2G】
- ・車いす使用者は、すべて下調べがいる。飛び込みで行けない【1G】

##### <既製品の手袋>

- ・手袋のサイズが合わない（男性としては小さい、女性としては大きい）【2G】

##### <方向音痴>

- ・方向音痴。地図を見てもわからない。方向音痴は多いようだが良い策がない【5G】

##### <電球の取り替え>

- ・部屋の電灯が高すぎて届かない【2G】

##### <投票箱>

- ・（選挙時）投票箱は紙1枚分しか入らないので、車いす使用者が入れにくそう【1G】

### ■グループワーク 2

#### | UD についての感想や意見

##### <初めて知ったこと>

##### ●視覚障害者の歩き方

- ・視覚障害者が白杖を使って歩いている様子を初めて見て、わかったことが多かった【8G】
- ・視覚障害者の家族も日常はガイドをしているので、今日のビデオで長距離の単独歩行の様子を初めて見たとのこと【8G】
- ・電信柱は邪魔だと思っていたが手掛かりにしていること、風を意識していることなど、初めて知った【5G】
- ・電柱の支柱が白杖使用者にとって危ない【2G】
- ・エスコートゾーンについて初めて知った【1G】
- ・線路にエスコートゾーンの設置が必要【2G】
- ・音への判断の細かさに感嘆した【2G】
- ・ビデオ出演の視覚障害者の歩き方はプロ【1G】
- ・白杖を叩くのは怒っているのかと思っていたが、そうではないことがわかった【2G】

##### ●音情報が足りない

- ・音の情報を字幕で入れて欲しい（会話だけではなく、トントン、カンカンなどの音も）【2G】

##### ●カスタマイズしたタブレットのメリット

- ・視覚障害者は共有のスクリーン等では見にくいことがあるが、在宅ワークでは画面を自分の見やすい環境にできることを知った【5G】

##### ●車いすの方の歩き方、工夫

- ・車いすで段差をあがる時、ちょっと斜めにする。健常者である自分は段差を危険だと感じていなかったが、車いす使用者にとっては危険を感じている人がいること【2G】

##### ●触手話

- ・聴覚障害者が盲ろう者のガイドヘルプをしており、触手話で伝えていることを知った【8G】

##### <多様な人のことを知ることが必要>

- ・健常者も障害者やUDへの理解を深め、いろいろなことを気づく視点を持つべき【8G】
- ・内部障害者からコロナで生活しやすくなったという話があったが、逆に困っている人もいる。

一人一人が困っていることや状況が違うことを理解することが大事【7G】

- ・今回こうした場で、多様な立場の人が日常生活で困っていることを知ることができた【6G】
- ・紙媒体は「デザイナーが良いデザインを」と作っているが、見る側には見にくいものになっていることがある【5G】



- ・大学病院で受付ボランティアをしているが、糖尿病で中途失明する人も多いと感じる。誰もがそうなることを意識することが大事【3G】
- ・知識を得て視野を広げることの大切さ【1G】
- ・それぞれのニーズが異なることを理解し、良い解決方法につなげていきたい【2G】
- ・いろいろな人がいることを前提としていない社会環境であることを実感した【2G】
- ・UDはまだまだ少なく、バリアフリーが大きな課題として立ちはだかっている【2G】
- ・人の意識は「普通」にとらわれている【2G】
- ・コミュニケーションの手段はいろいろ工夫されているようだから広めてほしい【2G】
- ・生活困難、外国人をどう扱っていくか【3G】

### <尊厳、男女の付き合い>

- ・グループホームではなぜ男女関係がご法度か。男女の付き合いの意味を伝えられないか【1G】
- ・恋愛禁止など、人として認められない【5G】
- ・一人一人の尊厳を大事にする話は印象に残った。出前授業を通じて子どもの頃からUDについて学ぶことは大切【4G】
- ・障害者も対等。他の人と同じに考えられるべき。男女関係がダメとはどういうことか？【2G】

### <ソーシャルディスタンスを確保した方法>

#### ●距離を保ってできること

- ・どこまで接触できるのか、接触することなくお手伝いできることはあるか【1G】
- ・コロナ禍のソーシャルディスタンス確保で、人に近づくのが難しい。マスクをすると口形や表情が分かりにくい。これまでやっていた人による対応が難しくなっている【7G】
- ・新しいコミュニケーションの工夫が必要だ【2G】

#### ●手話の活用

- ・ソーシャルディスタンスの対応が求められる中、聴覚障害者が学校で手話を教えるという話がある。給食の時間におしゃべりできるという利点もある【4G】

#### ●音の視覚化

- ・音を視覚化することは大事。例えば、バス車内で「次のバス停」が文字として電光掲示されると、多くの人にとって便利。そうしたことがUDになる【4G】

### <実際に見ることが大切>

- ・バスで車いす使用者が乗降しているところを見る機会があった。なかなか普段目にできない。直接目にすることは大事【6G】
- ・障害者との接点が普段はないため、良い機会になった。この経験を生かしたい【2G】
- ・江東区役所の藤棚のところにある階段を知らせる表示の作成は、まちづくり推進課の宿題にしてほしい。みなさんのニーズを感じ取ってつなげていきたい【3G】

### <環境づくり>

#### ●自転車のマナー

- ・聴覚障害者は自転車のことで不便を感じており、放置自転車や悪い運転マナーはみんなが迷惑をしている【8G】

#### ●遠慮せず頼める

- ・障害者が今まで以上に遠慮なくお願いできる社会環境ができればいい。障害者だけでなく高齢者から子どもまで誰もが住みやすい環境づくりが大事【5G】

